

(様式 1-5)

双葉町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和 6 年 7 月 26 日時点

※本様式は 1-3, 1-4 に記載した事業ごとに記載してください。

N0.		事業名	双葉町新規人材交流促進のための情報発信等事業	事業番号	A-1
事業実施主体		双葉町	総交付対象事業費	82,847 千円	
既配分額		27,900 千円	当該年度交付対象事業費	34,947 千円	
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業					
①情報発信事業					
小計 34,947 千円					
i) 風評動向調査 千円					
ii) 体験等企画実施 22,685 千円					
iii) 情報発信コンテンツ作成 9,800 千円					
IV) ポータルサイト構築 2,462 千円					
②外部人材活用 小計 千円					
i) 企画立案のための外部人材の活用 千円					
ii) 地域の語り部の育成 千円					
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修 千円					
風評の払拭に関する目標					
令和 7 年度までに、産業や生活の復興だけでなく地域コミュニケーションの活性化や起業等を担えるような人々との交流を深め、本事業終了後には。双葉に移住してくれる人が 10 人程度になることを目指す。					
事業概要					
事業実施主体	双葉町				
主な企画内容	双葉町の将来の仮説に共感する人材、起業等を担えるような意欲ある層や、これからの双葉町に関わりを持っていく可能性のある人材への情報発信を行い、交流機会を設けと同時に、双葉町への関係人口を増加させることで、町を発展させ双葉町を再生させる。				
主な事業の実施場所	双葉町、大都市圏（東京近郊）				
事業の実施期間	令和 4 年度～令和 7 年度				
企画内容					
【現状・課題】					
<現状>					
・ 双葉町は震災から 12 年以上が経過した令和 4 年 8 月末にようやく特定復興再生拠点区域の避難指示解除、住民帰還が始まったところであり、被災自治体の中での復興状況は最も遅い状況である。					
・ これまでは被災地、復興事業に関心がある人を中心に情報発信、関係創出を行ってきたが、特定復興再生拠点区域の避難指示解除を受け、今後は一般的な復興事業だけでなく、ソフト面での「双葉町の再生」を加速化していくための取組を進めていく必要がある。					
・ 各コミュニティ、周辺地域のみへの情報発信に留まっているため、双葉町の現状を広く発信していく必要がある。					

<課題>

- ・ 双葉町の再生を加速化していくためには、帰町した住民だけでなく、他地域の方々に双葉町の現状を知ってもらい、双葉町の再生に携わりたい、双葉町で貢献したい、活躍したいと思うような方々の関心を引き起こし、双葉町に来ていただく必要がある。
- ・ ここで、全国に目を向けると、地域で関係人口創出や活性化の取組を行っているような能力・やる気のある者は多くいるものの、そうした者は、例えば興味の切り口が「リノベーション」や「映像」であることが多い。しかしながら、現状の双葉町には、このような町の再生に向けた取組を担え得る者とのコネクションはない。
- ・ また、これまで行ってきた情報発信手法は、上記現状のとおり、主に産業や生活の復興そのものに関心を持つ者を対象としたものであることから、それ以外の地域活性化の取組を行っている層に対しては、必ずしも有効な情報発信手法とは言い難い。
- ・ したがって、双葉町の再生に寄与できる多様な人材との交流促進を図るため、関係人口創出や活性化の取組を担えるような人材層に対し効率的・継続的な情報発信を可能とする手法を検討し、戦略的に情報発信を行っていく必要がある。

【課題に対するこれまでの取組と成果】

<本事業以前からの取組>

- ・ 壁画アートなどの民間による取組を実施。
- ・ まちづくり会社により、町内でのイベント等を開催。
- ・ 町内に産業団地を整備し、全国を対象に企業誘致を実施。
- ・ 東日本大震災の被災地で新たな事業を立ち上げた若者やリノベーションの専門家、ランドスケープデザイナーの3名を交えたシンポジウムを実施。
(新型コロナウイルスの蔓延状況も踏まえ、オンライン（機微な意見もあるためクローズド）で実施。)

<過年度事業における取組>

○R5 事業

- ・ 新たな情報ターゲット及び情報発信手法の検討
- ・ 復興のための構想コンペの実施
- ・ 復興状況・潜在可能性発信のための Web コンテンツ制作・発信
- ・ キャンプの実施による現地理解の促進
- ・ 町内ツアーの企画

○R4 事業

- ・ 関係人口創出のためのシンポジウムの実施

<過年度事業における成果>

○R5 事業

- ・ 構想コンペの実施：1回（参加登録者数：103名、提出作品数：48品）
- ・ 特設 Web サイトの創設、SNS での関連情報の発信、大手メディアへの掲載
- ・ キャンプの実施：1回
- ・ メッセンジャーインレジデンスの実施：8回（人）

○R4 事業

- ・ オンラインシンポジウムの実施：1回

【今年度事業における具体的な取組内容】

1 コアターゲットに対する来町機会の創出

実施期間：R6.10月～R7.3月

実施体制：双葉町及び委託事業者

概算費用：25,060千円

<元双葉町民とのイベント（サミット・プレサミット）の実施> 15,260千円

双葉町の食材や郷土料理、双葉町に縁のある料理人による料理を楽しむ、購入できるコンテンツ（ショップの開催）と、双葉町の未来を考えるシンポジウムを組み合わせ、新たなイベントを開催する。

これにより、震災により故郷を離れた双葉町民に加え、原子力発電所事故の被災地に思いを寄せる人たちの来訪を促し、双葉町の食、地域の文化や、ポテンシャルを知る機会を創出する。

＜メッセンジャーインレジデンスの開催＞ 9,800 千円

双葉町の魅力をさらに広め、関係人口の創出を図るため、アーティストや起業家など発信力のあるメッセンジャーを双葉町に招集し、彼らに双葉町での滞在（数日間を想定。旅費・宿泊費は町で負担）を通じて得たインスピレーションを作品（アート、文学、映像、ドキュメンタリー、写真、音楽など）に表現させる。これらの作品は滞在后数か月以内で制作し、日本全国、さらには全世界の人々へ向けて、様々なメディアや SNS を通じて発信することとする。なお、メッセンジャーは発信状況を随時双葉町へ共有することとする。

2 関係町民の創造

実施期間：R6.10 月～R7.3 月

実施体制：双葉町及び委託事業者

概算費用：9,887 千円

＜スタディーツアーの開催＞ 7,425 千円

11 年間住民が居なかった双葉町の現状を東日本大震災の名残とともに現場視察から伝えつつ、双葉町で活躍するプレイヤーと対話する機会や双葉町の伝統文化に触れてもらうことで街の未来を体感してもらう。これらの取組を通じて、継続的に双葉町と関わる人材を増やす。

・個人向けツアー：震災や原発事故、まちづくりに関心のある 20～40 代若手社会人(各回最大 45 名)

1 人あたりの金額（¥10,000～¥12,000 想定）

＜マッチングプラットフォーム作り＞ 2,462 千円

双葉町での様々な活動に関心を持ち協力・参加をしたいと考えている人を集めたコミュニティを作る。双葉町で何かを始めたい人と、協力をしたいサポーターとをマッチングするプラットフォームを作ることで、双葉町を舞台とした新たなイノベーションの創出と、町へのコミットメントを引き出すことによる関係人口の創出につながる。

【今年度事業における目標】

【アウトプット】

- 1 コアターゲットに対する来町機会の創出
 - ・イベント（サミット）の実施：1 回程度
 - ・メッセンジャーインレジデンスの実施：6 回（人）程度
- 2 関係町民の創造
 - ・ツアーの実施：2 回程度
 - ・マッチングプラットフォームの構築
- 3 サステナブルな情報発信体制構築に向けた検討
 - ・情報発信手法と情報発信体制の事例調査：5 件以上

【アウトカム】

1 コアターゲットに対する来町機会の創出

- ・イベント参加者数：300 人
- ・イベント後のアンケートでの満足度：80%以上
- ・メッセンジャーインレジデンスによる、WEB サイト訪問者数：月 50 人以上等

2 関係町民の創造

- ・ツアーアンケートの「継続的に双葉町と関係を持ちたいか」等の項目：80%以上
- ・マッチングプラットフォームにおけるマッチング件数：5 件以上

【今年度、事業の実施により得られる効果】

1 コアターゲットに対する来町機会の創出、2 関係町民の創造

イベントの実施や取組の对外発信等により、双葉町の知名度向上につなげ、ファン（関心層）の掘り起こし・拡大を図る。これにより、双葉町の関係人口の更なる増加を目指す。

【次年度以降の取組】

- ・継続的な情報発信を行い、本事業が単発で終わらないための仕掛けづくりをする。
- ・本取組により得られたコネクション等を活用し、復興を担う人材発掘や町に寄与する取組を見出す。